



檜沢城と檜沢古館

檜沢宿のある下檜沢地区一帯では、宿を囲むようにして多くの城館跡が残っています。その中でも、今回は檜沢郵便局の西方の山上に位置する檜沢城と檜沢古館について紹介します。

檜沢城

檜沢城は宿との比高約100mの位置に主郭を置く山城で、南側と東側に曲輪群を配置しています。主郭南部に広がる曲輪群の先端には、帯曲輪と塹堀が嚴重に配されており、高い防御性を持っていることが分かります。主郭東部の曲輪群の最も低い位置にある曲輪は、「館」という小字名を残していて、かつては居館があったと考えられます。主郭の西には幅約4m、深さ約2mという巨大な二重堀切が配され、この城の堅牢性を物語っています。

檜沢城は、その広大な遺構規模から戦国時代に築かれたと考えられます。戦国時代の檜沢地域では、「檜沢衆」が編成され、那須氏の内乱などに派遣されていました。佐竹氏は隣国である下野国の那須氏と対立・和解を繰り返し、この檜沢城も対那須氏の拠点として機能していたものと思われます。しかしながら、麓の集落では檜沢城は城跡として知られていませんでした。その代わりに城跡としての伝承が残っているのが、檜沢古館です。

檜沢古館

檜沢古館は檜沢城の西方、標高291mの山頂に築かれ、直径約15mほどの円形状の曲輪を主郭部とする山城です。主郭から北西に30m先に、幅・深さともに2mの堀切が配され、尾根から攻めてくる敵を食い止める役割を果たしています。

檜沢古館という名称は、茨城城郭研究会の高橋宏和氏によって、前述した檜沢城と区別するために、独自に用いられました。

この城館は、檜沢城築城以前の南北朝から室町期の頃に築城されたと考えられます。その頃、佐竹氏は本宗家と山入佐竹氏との間で、およそ100年に及ぶ内乱を戦っていた時期でした。この内乱には、佐竹一族で檜沢地域を本拠としていた檜沢氏と小室氏も参じており、檜沢古館はこの戦に対応するために築かれたと考えられます。

最後になりますが、なぜ檜沢古館が城跡として伝わり、檜沢城が城跡としての伝承がないのでしょうか。

高橋宏和氏は、『続・図説 茨城の城郭』の中で、檜沢城の築城目的が地域支配でなく、軍事拠点であったからではないかと考察しています。城跡の遺構のみならず、地域の伝承からも城の機能を考えることができる興味深い事例ではないでしょうか。

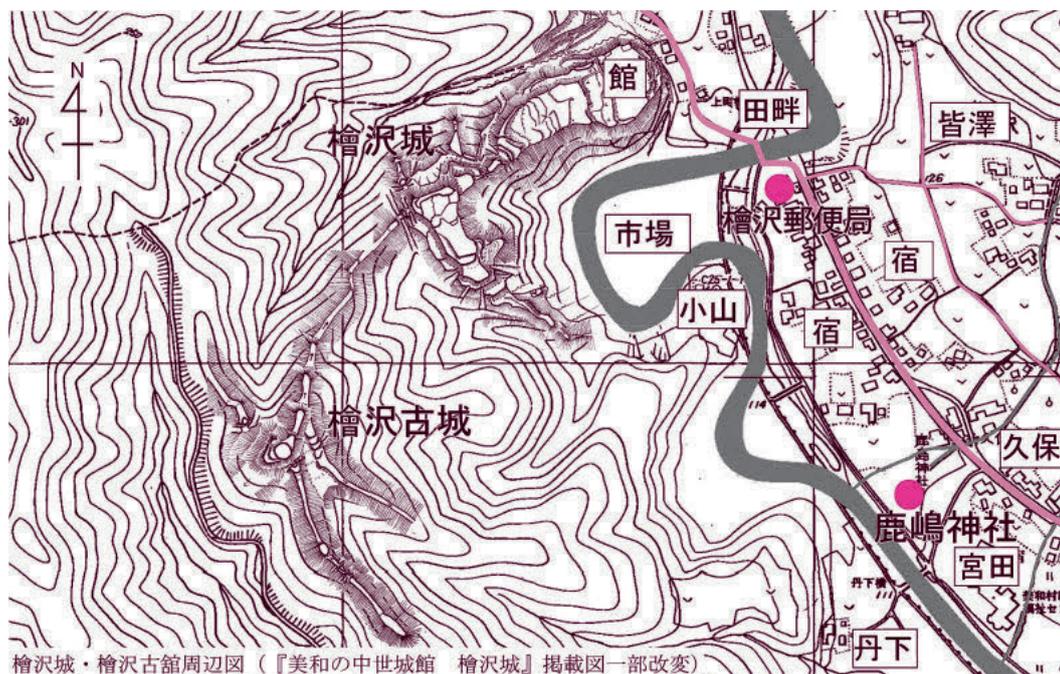
【参考文献】

茨城城郭研究会編『続・図説 茨城の城郭』（国書刊行会、2017年）、山川千博編『美和の中世城館 檜沢城』（森と地域の調和を考える会、2019年）

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52 - 1111（内線344）



檜沢城・檜沢古館周辺図（『美和の中世城館 檜沢城』掲載図一部改変）